

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4073000491		
法人名	株式会社 データベース		
事業所名	グループホーム 我楽ちくしの		
所在地 (電話番号)	福岡県筑紫野市大字山口865-1 (電話) 092-929-3100		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年9月6日	評価確定日	平成 19年 10月 20日

## 【情報提供票より】(19年 7月 1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	12 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 11.6 人

### (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 2階建て1・2 階部分	

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 500000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	円
	夕食	円	円
	または1日当たり	1500 円	

### (4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	15 名	男性	4 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	うめづ医院・くろだ歯科クリニック
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昨年12月に地域と密着できるような場所にと現在の場所にホームを新築移転。周囲を山と田畑に囲まれた自然環境豊かな立地条件となっており、ご利用者の居室やリビングからも長閑な景色が眺められ、季節の移り変わりがホームの中にも感じられる。近くの川では釣りを楽しまれる人を見かけることも出来る。ご利用者も職員も皆明るく、ご利用者が縛りなく自由に過ごせるよう一人ひとりの意思を尊重したケアに取り組まれているホームである。ご利用者がホームでの生活を楽しめるよう、広い庭には代表自ら実のなる木を植えられたり、ご利用者個人用の花壇や畑も作られている。ホームの中で時には1人でのんびりと寛げるよう、和室に囲炉裏を設置した“一人ぼっちの部屋”も用意されている。移転して間もないこともあり、職員は地域との関わりを大切にするためにもこれからさらに取り組んでいこうとする姿勢がうかがわれた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①ホーム内の温湿度管理を客観的に把握するために温湿度計を設置②個別具体的な介護計画の作成③ホーム内の衛生管理の見直し④地域の人達との交流促進等の改善、等が挙げられる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で前回の評価結果を踏まえ、要改善の箇所を把握し改善に向け取り組みを行った。運営推進会議でも報告し意見を頂いた。今回の自己評価は毎日20分ほど仕事の合間に時間をとり、1項目づつ話し合っていたため、評価の過程で気付くことも多く、取り組んでいく課題の確認にもなった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	区長・組長・民生委員・地域包括支援センターの方・市の職員・家族代表参加のもと3回開催した。自己・外部評価の結果を報告し意見を頂いたり、地域との交流促進への意見を頂きサービス向上に活かしている。民生委員さんからの要望もあり2ヶ月に1回の会議開催の継続に取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	2ヶ月に1回“我楽ちくしのだより”を発行し、暮らしぶりや行事内容・職員の移動など掲載している。健康状態や金銭管理についてはご家族訪問時に口頭でお伝えし、遠方の方には電話でお伝えしている。運営推進会議や年2回の家族会において、ご家族からご意見を頂いたり要望をお聞きして可能な限り対応するよう検討を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	昨年12月に現住所に移転。その着工前から地域の方に挨拶に回ったり、住民を集めての説明会も行われた。地域の勧めもあり町内会に参加し、夏祭りや道路清掃・公民館清掃に参加し交流を深める努力を行っている。ご近所の方と挨拶を交わしたり、野菜や野菜の苗を頂いたりする関係もできている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で一住民として暮らしていけるよう「その人らしさを尊重し、共感します。安心感を与えて楽しく、優しく、笑顔で接します。ご家族等との交流を持ち、地域の行事活動に参加します」という代表によって作られた理念を掲げ、職員にも受け継がれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの時、代表自ら“NOとわない介護、今までの人生に敬意を払うこと”等理念に基づき言葉を代えて話され、介護主任が申し送りや日々のケアの場面で、地域の方との交流促進など職員に伝えている。職員は日々ご利用者の話を傾聴したり地域の方との交流促進に努め、地域密着型としての理念の実践に向け行動に移している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年12月に現住所に移転。その着工前から地域の方に挨拶に回ったり、住民を集めての説明会も行われた。地域の勧めもあり町内会に加入し、夏祭りや道路清掃・公民館清掃に参加し交流を深める努力を行っている。ご近所の方から庭の畑に“植えなさい”と野菜の苗を頂いたり、野菜の差し入れを頂くなどの交流もみられる。今後老人会への参加も予定されている。転居して間もないため地域とのつきあいはまだ充分とはいえない。	○	地域の年間行事を把握して今後可能な限り参加していきたいとの思いがある。ご利用者1人ひとりが地域とつながりながら暮らし続けられるよう事業所がその基盤を築いていかれ、さらに行事に参加しながら役割を担えるようなこと、お手伝いができるような関係作りを検討して頂き、地域住民との交流に積極的に取り組んでいかれることを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で前回の評価結果を踏まえ、要改善の箇所を把握し①温湿度の管理の見直し②個別具体的な介護計画の作成③ホーム内の衛生管理の見直し④地域の人たちとの交流促進等の改善に取り組んだ。運営推進会議でも報告し意見を頂き職員で話し合いも行われた。今回の自己評価は毎日20分ほど仕事の合間に時間をとり、1項目づつ職員で話し合っ自己評価に取り組んできた。代表自らも自己評価に参加されている。評価の過程で気付くことも多く取り組んでいく課題の確認もすることが出来た。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年12月に移転後、区長・組長・民生委員・地域包括支援センターの方・市の職員・家族代表参加のもと3回運営推進会議を開催。自己・外部評価の結果を報告し意見を頂いたり、地域との交流促進への意見を頂きサービス向上に活かす取り組みが行われている。民生委員さんより2ヶ月に1回開催してほしいと取り組みに積極的な意見も頂いている。慣れないからとご利用者の参加はまだ実現されていない。	○	ご利用者が短時間でも会議に参加できるよう茶話会後会議に移行するなど、二部構成にしてみるなどの取り組みを期待したい。また会議録の書き方で誤解を招くような表現になっていたり、誰の発言か不明な記録となっているため、記入の検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	移転をきっかけに事務主任が市の窓口を頻回に訪れてわからないことを聞き、市の担当者も一緒になって考えてくださり相談しやすい関係となっている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホーム協議会の研修に参加し報告書をまとめると共に、他の職員に伝達研修も行っている。すべてのご家族に説明はされていないが玄関にパンフレットを置いて、家族から質問があれば説明を行っている。	○	ご家族に対し質問があった時のみではなく、すべての方に説明し理解していただくよう、運営推進会議の場を利用して市の職員さんより説明を受けたり、ケアマネ(社会福祉士)より説明する等の機会を設けられることを期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2ヶ月に1回“我楽ちくしのだより”を発行し、個人の写真や行事内容等の暮らしぶりを伝え職員の移動も掲載している。健康状態や金銭管理についてはご家族訪問時に口頭でお伝えし、遠方の方には電話でお伝えしている。ご家族によって知りたい内容が違うため、ご家族が来られたときにしっかりお話を聞いて、知りたい情報は何かを把握するよう努力しているが、遠方の方や面会の少ないご家族の場合充分なお話しが出来ているとは言えない。	○	面会の少ないご家族や遠方にお住まいご家族の場合、口頭での報告の機会が少ないことから、ホームだよりを工夫して細やかな情報を掲載し、更に喜んでいただけるような内容になるようにしたいとの思いがあり、更なる今後の取り組みに期待したい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や年2回のバーベキューを兼ねた家族会や運営推進会議において、ご家族等にご意見をいただけるような機会を作っている。入浴回数のことや食事時間のことなど率直なご意見も頂き、可能な限り対応するよう検討を行っている。重要事項説明書に市町村・国保連等の相談窓口も掲載している。遠方にお住まいのご家族やなにも言われないご家族の場合充分意見を聞いているとは言えない。	○	遠方にお住まいの御家族や意見を特に言われないご家族の場合、ご家族だけで話し合いをする場を設けるなどの工夫を期待したい。お手紙を出した後、返信票をつけて自由に意見を言ってもらえるような取り組みを検討されており、今後の取り組みに期待したい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ご利用者へのダメージを考え職員の異動・離職を最小限にするために、代表自ら職員の話をよく聞き、離職防止の取り組みとして2・3ヶ月に1回臨床心理士が職員と面接して悩みを相談できる体制もある。2・3ヶ月に1回食事会を設け、職員の様子を見て主任が声かけしたりしている。やむをえず職員が代わる場合出来るだけ普段どおりにご利用者が生活出来るよう配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたって、性別・年齢・宗教・出自等を理由に最初から採用対象から外すということはない。個人の持っている能力を発揮して頂き、料理・花作り・棚作りなど得意な力を発揮して頂いている。家庭の事情に合わせた勤務の調整も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングの時や申し送りの場で代表や主任が入居者の人権について伝え、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は事業所のサービスの質を良くするためには、職員の質の確保・向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、グループホーム協議会の新人研修を受けさせるなど育成に努めている。代表から研修の案内があり参加を促している。ファックスで情報が送られてくることも有り研修会に参加している。一人ひとりの希望を聞き話し合っているが、個別の計画を立てるまでには至っていない。	○	職員1人ひとりの能力を把握して段階に応じて育成するための計画を作成され、職員の質の確保・向上に向けた取り組みをされることを期待したい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人代表は介護保険事業者連絡協議会筑紫支部の役職にあり、他事業所との関わりも多くサービスの質の向上に向けネットワーク作りに努め、同業者の意見を参考にし職員にも研修参加を促している。ホーム同士の相互訪問も行われている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から電話が入り、まずホームを見学して頂きその感想を御本人に伝え、後日御本人も一緒に見学に見え体験入所を経てホームの雰囲気徐々に馴染めるよう配慮している。ご本人の気持ちを尊重し納得されない場合は無理に入居を勧めることはない。入居後も入居前から好きだったことを聞き、自宅から菊を持ってきてもらい専用の花壇を準備し以前のような生活が送れるよう配慮している。しかしご利用者の御自宅を訪問して生活ぶりを見ることは行われていない。	○	主任は以前からご利用者の自宅を訪問したいという思いがあり、自宅での生活ぶりを見せていただき生活の様子や部屋の様子を把握されてケアに活かされることを期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者と一緒に食事の準備・後片付けをしたり畑仕事をしながら、料理の作り方や畑の作り方、雑巾の角の縫い方、詩吟や大正琴など教えてもらっている。職員が夜遅くまで仕事をしているとご利用者から労ってもらうこともあり“一緒にお茶しなさい”と声をかけてもらうこともある。	○	お互いに支えあう関係作りが出来ているがもっとご利用者との関わりを持ちたいとの職員の思いが強く、更なる取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者がホームでどのように暮らしていきたいかを日頃のケアの中や通院時2人になったときに、ご本人の気持ちや思いを聞いたり生活歴等確認している。意思疎通の困難なご利用者に対しては、表情や思いを汲み取り家族の希望も取り入れプランに反映させている。ご家族が来られたときに希望や意向を伺っているが、なかなか来れないご家族の場合十分に意向の確認ができていないといえない。	○	思いや意向を把握するために、ご家族にプランを郵送して書き込んでいただく案も検討されていることより、今後の取り組みに期待したい。またご本人・家族と分けて生活への意向を1表に記入されることを期待したい。
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間で介護支援専門員の意見を中心に、ご本人の現状に即したケアプランの検討を行っている。ご家族に後日プランの了承は得るが、ケアプランの話し合いの席にご家族を呼ぶことは行っていない。	○	ご利用者本位の介護計画を作成するためにも、本人・家族を含めた話し合いを行い意見やアイデアを反映した介護計画を作成されることを期待したい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回カンファレンスにて話し合いが行われ、長期目標1年、短期目標3～6ヶ月で職員全員でプランの見直しが行われ、急な状況変化はナースを含め随時見直ししている。職員での見直しはされているが、ご本人・家族・必要な関係者との話し合いは行われていない。見直し後ご家族に承諾を得ている。長期・短期目標が職員の視点で立てられており専門用語も多く、行っているケアのすべてがプランに記載されているとはいえない。	○	ご本人・ご家族・必要な関係者を含めたプランの見直しをされると共に、目標を職員の視点ではなくご利用者主体の目標とし、ご利用者にわかる言葉に置き換えられることが必要。目標達成がわかりやすいように具体的な目標設定にされることを期待したい。また行っているケアのすべてはプラン上に記載し、実践に移せるようなケアの手順書等作成することを期待したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を活かし御利用者・家族に安心して暮らし続けていただくために、個別の買い物支援や病院受診・リハビリ同行、自宅に帰りたいと言われた時の同行やお花を見たいと言う方の同行など行っている。また体の不自由な御近所の方になにかあったら声を掛けて下さいと声掛けもされている。		
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望で、ご利用者の1・2割りの方は元のかかりつけ医の受診を継続して受けられている。協力医療機関の医師は24時間対応可能で、電話でも気軽に相談できる関係となっている。職員が付き添って病院受診しており、検査結果を含め診察の結果をご家族に電話で報告している。週1回の歯科往診も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に終末期のケアに関して、ご家族とよく話し合い意向を確認して、ターミナルケアへの同意書にサインを頂いている。状況が変わったら随時話し合いを行い、医師から説明をして頂き再度意思を確認し全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	代表・主任が書類の管理や言動など含め、個人情報保護について日常的に職員に伝えている。物取られ妄想があってもその方を否定しない態度をとるよう指導がされている。1人ひとりに応じた個別の声かけがされており、居室に入るときは必ずノックをしている。全職員がプライバシーを尊重した声かけや対応ができています。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ家にいた時に近い状況で生活できるよう、基本的に日課はあるも自由にして貰っている。“規則がないのが規則”との代表の考えに沿って、やりたいことをやって頂けるようにケアを行っている。自由に家で過ごされておられたときと同じように、自ら動けるよう環境作りにも配慮している。1人ひとりのペースを尊重して、食事や入浴などできる限り希望に添えるよう時間調整が行われている。外出希望も随時対応されている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者のその日の気分や希望にあわせ一緒に献立を考えたたり、買い物や下準備、盛り付け、配膳下膳、後片付けなど職員と一緒にやって行い、食事を楽しめるような配慮がされている。地域の食材を活用したり地元の料理をご利用者に教えてもらい、夜勤者と主任が検食を兼ねて一緒に食事を行っている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者の入浴の習慣を聞き、夕方を希望される方には夕食後入浴できるよう対応している。1階と2階で日にちを代えて交互に入浴を行っているため、毎日入浴を希望されても対応は可能となっている。1人ひとりの希望に合わせてお湯の温度や入浴剤の使用もされ楽しんで入浴できるような配慮もされている。入浴拒否のある方には家族に手伝っていただいているケースもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前からお好きだった詩吟や大正琴、ハーモニカの演奏・畑仕事・裁縫・料理などの家事仕事など楽しみごとが続けられるよう支援している。またその方の力を発揮して頂き、お花を生けていただくなどの役割も担っていただいている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者がよく行っていたお店や馴染のところへの外出支援を行っている。寝たきりのかたも車椅子を利用して近くの公園にお連れしたり、ご利用者の要望に沿ってドライブに出かけることもある。外出を好まれない方には、お好きなコーヒーを飲みに行きませんか？と声かけしてホームに閉じこもらないよう外出を促すなどの対応も行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前の道路は交通量が多く危険なため、門扉には鍵がかかっているが簡単に開けられるようになっている。玄関の鍵はかかかっておらず自由に入出りができる。人が通ると音がるセンサーが玄関に設置されているため、音がしたら職員が確認するようにしている。1人の方が庭に出るとき転倒の恐れがありリビングには鍵を掛けているが、庭に出たいと言われるときは職員が付き添い自由に庭に出られるように見守り介助している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けてご利用者も参加しての避難訓練が行われた。これまでも年4回の非難訓練が行われ、昼夜を想定した訓練も行われている。災害時に備え2リットルのペットボトル8～9本・非常食のクッキー・毛布・ポータブルトイレ等の準備もされている。転居間もないこともあり地域に対して災害時の協力の依頼は特に行われてはいない。	○	災害時における地域の方々からの協力が得られるように、運営推進会議において一緒に避難訓練を受けられるような取り組みの提案を検討されており、今後の取り組みに期待したい。
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人内の管理栄養士に、メニュー表のチェックとカロリー計算をして頂きバランスも問題ないか等の指導・助言を頂いている。ご利用者の好みのも、苦手なもの、アレルギーの出る食品を確認し代替食品を用意するなど個別な対応もされている。状態詳細記録に全員の水分・食事量も記入されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭の花壇にはお花や野菜が植えられ個人用の花壇スペースも確保されている。玄関やリビングには季節が感じられるような飾りや花が飾られている。リビングのテーブルは少人数を好まれる方や、ご夫婦むけに2人がけテーブルも2セット用意されている。1階にはテレビ前に畳が敷いてあり、2階には廊下にベンチがあり和風の座布団が置かれ、思い思いにホッとできるスペースが確保されている。1・2階とも、いろりのある和室があり、ご利用者が1人でゆっくり寛げる“一人ぼっちの部屋”も用意されている。ご利用者にとって不快と感じる音や光は感じられず気になる臭いもない。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が居心地良く過ごせるよう、家で使っていた椅子やテーブル・筆筒・一面鏡・位牌・写真・ご本人が書いた絵・など持ち込んでいただいている。持ち込みの少ない方には家族にお願いして持ってきて頂くこともあるが、ご自宅を訪問したことはなく自宅の様子は充分把握されていない。	○	ご自宅を訪問することでどのような生活をされていたのか、馴染みのものはどのようなものかを見つけていかれることで、さらに居心地よく過ごせるような工夫や配慮ができると思われる、ご家族と相談され取り組んでいかれることを期待したい。